

いななき



青山学院馬術部

目 次

巻頭言「スポーツとは」		1
部長 偶 感		2
展望「来年は」		2
前 主 将 挨 拶		3
前女子責任者挨拶		3
46年度主将挨拶		3
46年度女子責任者挨拶		4
緑 鞍 会 記		5
緑鞍会係挨拶		5
O・Bだより		6
二 部 記		7
主 将 挨 拶	小 川 藤 夫	7
高 等 部 記		8
高 等 部 係	柴 田 貢	8
「だいなし」	池 田 貴 美 子	8
夏 合 宿		9
合宿アンケート	大 学 生	9
夏 期 合 宿	吉 川 徹	11
	神 崎 道 子	12
	薄 井 周 子	5
	渡 辺 し を り	4
	原 野 洋	3
	三 宅 恵 子	3
	伊 納 保 夫	3
	佐 藤 一 貫	2
	土 田 三 千 雄	2
	植 松 英 二	1



リーダーズキャンパス報告	小勝とみ子	12
会計報告	平井恵美子	13
45年度試合報告	高橋正樹	14
全日本学生三大競技要点		15
馬術部の四季「綱島日誌」より		17
卒業生雑感		18
「あの歌この歌」	曾我正晴	22
或る秋の日、ふと感じた事	飯野和男	22
図書館にて	六平潔	22
断片的合宿記	芳野恭子	23
無題	斉藤美子	24
卒業にあたって	千葉雅世	24
緑鞆会、現役名簿		25
馬匹紹介		38
編集後記		39



巻頭言

『スポーツ』とは

緑鞍会幹事長

植松 英 二

（昭和二十八卒）

「スポーツ亡国論その狂気と現代」（牛島秀彦著）という本があ

る。これによると野球、レスリング、ボクシング、ゴルフなど諸々のスポーツが「狂気」と「亡国」へ人々を誘っていると言う。

体力を増し、団結心を幸い、根性をつくるために最もいいものはスポーツだと考えているものにとって「スポーツ亡国論」などと、いまさら世間知らずもはなはだしいと思われる。

しかし、著者が言いたいことは、別なことであるらしい。つまり、スポーツは人々を昂奮させ、陶醉へ導き、わずらわしい人間関係、物価上昇、公害、そして核戦争、といった、人間を駄目にするもの、社会を破壊するものを忘れさせるあやしい魅力がある。この魅力にとり

つかれるとき、現実に存在する自己を喪失へと、自分で切り拓く人生を過去に縛りつける惰性の一生へと、向かわしめる「思考停止状況」が生れてくるのであつて、この処が実は問題なのだと言うのである。わが馬術部の体質はどうであろうか。

確かにスポーツはこれを見物する人しそうであるか、これを行う人々を「昂奮」と「陶醉」へと導く。そこではやりきれない生活は落つき、軽くなる、だがそれは、やりきれない生活を、真に、面白くなものに変革したのではない。

やり切れないと思うことをしばらくマヒさせただけのことである。やりきれなさは厳として存在するのである。

問題は「スポーツ」にわれわれの生活のやりきれなさを隠す役割を担わせるところにあるようだ。

生活のやりきれなさは、どこから押しよせてくるのか。さわやかな生活はどうしたら現実になつてくるのか。「スポーツ」の中にこのような問いを鋭く豊かにする道は期待できるのたろうか。

部長 長 偶 感

部長 土田三千雄

来 年 是

監督 佐藤一貫 (昭三十三卒)

馬術部長という事になってからも二〇年ぐらになる。思えば長い年月だけれども長いばかりが能ではない、省みればこれ程無能な部長もなかったと思う、しかし無能でやって来たという事は部長はデクの樺でも部長がみんなしつかりやって来たという証明になる。

初期の頃、まだ馬房が青山のキャンパス内にあった頃は、一頭か二頭の馬の餌に事欠いて、部の最底の生活費で苦労した。網島にうつってからは色んな問題が山積してきた。そしてその主なものは今でも解決がつかない。馬場の拡充と馬房の改善がその最大なものだ。まずい時にはまずいもので、目下私大は財政の逼迫にあえぎはじめた。とても馬房の方へ手がまわりそうにもない。しかしこれはきわめて切迫した問題なので何とかしなくてはならない。

二〇年の間には色々なことがあった。悲しい事もあったし喜びもあった。水泳中死去された短大の諏訪さんの時の記憶は今でも新しい。

真夏のある夕方、夕食をはじめようとしていたら秋田から長距離電話で事故を知らせて来た。めしは喰はずに上野の駅へかけて来て、寝台券がないと乗れない。だが残された一つの列車に無理矢理乗り込んだ

事。その列車は盛岡行きだから盛岡で朝下車して、それから延々何10キロをタクシード角館の町まで走らせた事。そしてそれらの事。

たのしい事は親しかった部員が生長して社会で立派にやって行く姿をみる事が、時々行われるOBの会でその連中に会う時は無条件にたのしい。OBの中心が青木会長でこの会長のすぐれた人格と誠意とがOB会を今日あらしめている。

運動部を中心としたこうしたグループの交わりは元来利害で結ばれたものでないだけに、本当に美しいと思うし、そうしたグループと交われる事が僕にとっては何れにしても事である。



早いもので、監督の大役を委されて三年目の冬を迎える事になった。

唯々、右往左往の三年間ではあったが、幸にして諸先輩の応援と現役部員の努力、また周囲のあらゆる援助を得て、ようやく充実度を増したように思われる。

しかしながら来年度に、二つの大きな問題をかかえて、今一層の努力とまた諸先輩に応援をお願いしなければならぬかと思う。

その一つは現網島の厩舎の改築、他の一つは部員の確保。

第一に厩舎の件は、現在のものはその老朽化が甚だしく、度々の補修も追いつかぬ程の有様で、恐らく来秋の台風期を保ち応えるかどうかと思われる状態である、何としても来夏迄に改築のめどを立てたく、現役は勿論の事、諸先輩の一層の応援を期待せねばならないと思う。

現在の所、此の春頃から学校側にも増築の申請を提出し、土田部長にも御骨折りをお願いし、一応、学校側にも何とかせねばならぬと云う所までこぎつけて来たの現状だ、後は具体的に、何時、何のようない形でそれが実現出来るか、また出来れば一日も早くそれを実現させるように全員の努力が必要と思われる。

さて、第二の部員の獲得の件は、年々運

動部に対する男子の新入部員が減少して行くこと云われる昨年の事、もつとも頭を痛めて居る問題で、部員の数と馬匹繋留数とのバランス、それは経済面に直接響き、必然的に馬匹頭数に継がって来る、部員の絶対数の確保は、部の運営上第一に考慮されねばならない問題だ。

御承知の如く、馬術部は個人の拘束時間が厳しく、シーズンオフ一般的に云ってが全く無いと云う事も、最近の学生の入部を躊躇させる材料かと思つた。

唯、幸な事に青山は、高等部と云う云わば予備軍があつて、現在迄も他高校よりの推薦入学者をそれ程必要として来なかった。

しかし、過去を振り返って、必ずしもその高等部員が、ストレートに大学に入り、即新入部員として考えられないところに弱さがあった。高等部にありながら、他大学に移つたら、或いは青山に入學しても馬術部には入部しなかつたりと云うケースが度々あり、何の為に高等部の選手を育てたのかと嘆く事も再度あつた。

さて来年度は如何と云うと、何とも予測は出来ないが、凡そ、男子二名、女子三、四名は何とか高等部から上つて来るのではなからうかと思つて居る。

皮算用にならぬ事を祈つて止まない。

前主将挨拶

伊納保夫

さて大学の監督は四年がサイクルたと云われる、差しつめ来年度は四年目を迎える事になるが、私もそろそろ辞めさせて戴き度くなって来た、仕事の上でも、家庭の中でも四面楚歌の内と云うムードである。

その為にも何とか来年度は総合優勝を獲得したいと思つて止まない。それを置土産に辞任させて貰おうかと思つて居る。

来年は他にも様々な難問をかかえて居る、二部との合同の件も厩舎改築の件と合わせ重要な課題である。

年来の赤字の解消も実行せねばならないし、仕事以上に頭の痛い問題だ。

最後に愚痴が出て来るようでは、私も大分年とつたように思う。

願わくば現役部員の一層の奮起と、諸先輩の絶大なる応援を切望し度く思う。



私が青山学院大学の馬術部にいた四年間は考えられない程短い時期であつたと思う。殊に私が主将を務めた一年間は酷な程遠く走り去つてしまつた期間であつた。

その短い現役生活の中で私は幾度か試合を経験して来た。試合に於いては何といつても勝つ事が大切な目的であるがその中でも是が非でも勝たねばならない試合も数多くあつた。そして私はあらゆる人馬を相手として競技に臨んだ。しかし、私が本当に真剣に試合に臨む時、まず勝たねばならない戦いの相手が自分自身であつた事を考えずにはいられない。

それは時として姿を変えて私に戦いをいどんで来る。ある時は、人馬の調子の悪さについて不安になる自分であり、ある時は勝利を気にしすぎて固くなる自分であつた。又ある時はとつさの決断に迷つ自分であつた。これはほんの一例にすぎないのだが・・・。一番の頼みであるはずの自分自身が一番はじめの強敵であつたとさえない。勿論、自分との戦いは、試合の時に限つた事ではなく、馬術部生活全部を通して言える事である。むしろその方が長い戦いであるはずだ。

私が馬術部において、勝利を競わねばならない試合はすでに全て終了した。しかし、本当に戦うべき相手を私は今新たにみつめなければならぬ事を感じている。

これからの馬術部の発展のためにも、自身との戦いを恐れない事のない気力こそ部員一人一人が練え合つて行くべきものではないだらうか。

前女子責任者挨拶

三宅 恵子 (文四年)

大学を卒業する時、私にとつて馬術部生活はかけがえないものであつたと思うだらう。現在、役員を交代し馬術部から離れ、卒論の事で頭を悩まし、日夜何もでこない頭脳から何かを絞り出そうとしている身にとつて、さつと胸を上ざるのが馬の事であり、部のことである。が今は馬術部生活という「時」を考えるに値しない日々を送つていふと思つた。

私の馬術部生活は「バカになつてやつてみる」ことであつた。それは自己の損得を顧みず、ただその時の一瞬の必死の状態を求めることであつた。ひたすらそれを信じてやつてきた。

過ぎた事は過ぎた事であり、その思い出や苦勞を乗り越えて、次の新たな道を歩まなければならぬ。またもや「必死の時」を求めようと張切つて居る。

46年度主将挨拶

原野 洋 (営三年)

九月に幹部交替をしてやつと軌道にのつて来た今日この頃ですが、この場をお借りして新三年幹部の紹介をさせて頂きませす。まず副将兼会計の高橋正樹、彼は阿弥陀

如来の顔を持ち冷静沈着とした表情で馬場全体を見渡し時折彼独特の嘲笑に満ちた言葉浴びせかけています。又一方私の片腕として非常なる影響をクラブに与えています。現在は青冠、青笛に情熱をそそいでいます。

次に女子責任者の渡辺しをり。彼女は全日本女子学生選手権に於て二位(落馬二回)に入賞し学校から優秀選手として表彰されました。……がしかし、彼女は全く不思議な事に平衡感覚に乏しく馬場では転んでばかりいるおかしな人です。女子責任者として私と同様非常に甘く常にスマイルを持ち、青貴に片想いをしつゝ馬場に臨んでいます。

次は協会幹事平井恵美子。彼女は大学から始めながらもち前の勝ち気さからすばらしい上達をみせています。又彼女は酒が入ると、得意のどでみんなを楽しませてくれますので、一度お試しになるとよいでしょう。馬場では青凜に乗り大声で号令をかけてはりきっています。

次は緑鞍会係の薄井周子、彼女は肥満児協会々長に昇進し、常にその精神を忘れず食べる事に生き甲斐を感じています。そして人情家である為「泣き虫であります」。私達の良き相談相手としてユニークかつ貴重な存在であります。

最後に私原野洋、青山学院大学体育会馬術部主将という輝かしい地位につき、授業はさておき、ひたすら綱島別宅と千葉の実家をいきまきしてあります。

以上の様に三年の人数が少い為、二年の者も主務、高等部コーチ、副務等幹部として重要な任につけ三年共々クラブをより以上のものに盛り上げていこうと張り切っています。今年の課題として馬房新築の件、及び二部との合併等様々な問題をかかえておりますが、又OBとより一層の結びつきを……と考えておりますので、今後共指指導をよろしくお願い致します。

46年度女子責任者挨拶

渡 辺 しをり (文三年)

人一倍運動神経が鈍く、典型的な一人っ子といわれていた私が、なぜ馬術部等という到底思いもよらない世界で過ごすことになってしまったのでしょうか……私が馬に乗りはじめた動機というのは、特別動物が好きで、小さな頃から、お人形遊びをするにも人間の形をしたものは嫌、本を読むにも動物が出て来ないと嫌、という具合だったのです。

馬術部に入って二年近くたった頃から、私はなぜ馬が好きなくせに馬に乗るのだらう……馬は人なんか乗せるのは嫌に違いないだろうかと考えました、しかしやはり馬に乗りたいという気持ちには勝てず、いろいろ考えた結果、「努力してうまくなり、そして私が乗ることによって少しでも馬が良くなるようになりさえすれば、馬も許してくれるのではないだろうか」等という虫のよい結論に達し、それから現在に到るまで、30回近く落馬して少しでも馬を良くすることのできる乗り手になろうと努力してきました。現在の私にとって試合に勝った時よりも、青貴がちゃんと八ミを受けてく

れた時の方が嬉しいのです。しかし時々、自転車にも乗れず腕立てふせさえ一回もできない私にとって馬を良くする等ということは不可能を事なのではないだろうか」等と思いません。そういう時には「調教なんて馬との根くらへだよ」と阿部先生がおっしゃった事を思い出し、それならば……と夢を持つている次第です、しかし「私は今まで、沢山の馬のお腹に拍車を入れ、ムチを入れていったい何を学んだというのだらう」という疑問をしょっちゅう感じ、ただただ乗せていただいている馬に申し訳なく思うばかりです。

現在の馬術部には、莫大なる可能性を秘めた新馬と優秀な下級生が沢山居ります。可愛い馬達の一生が人間の手一つで良くも悪くもなるのだという事を忘れないで下さい。

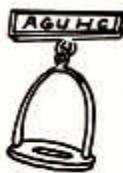
乗馬用長靴・高級保存型・軽便保存型・拍車及巻バツク

創業 60 余年

有限会社 東京 稲毛 屋

東京都渋谷区神宮町 6-11-4 TEL (400) 5929
代表取締役 広山 二郎

賞品・記念品等
物用命は是非
SAGARA の
ユニークな作
品をどうぞ



取扱商品

カッター・トロフィー
楯・メダル・
バツク・時計・
装身具・貴金属
製品

株式会社 相良

代表取締役 相良 敏夫

(大正十五年・奨励券)

K.K. SAGARA 製作

東京都渋谷区神宮町6-9-9

(電)400-6478

緑 鞍 会 記

緑鞍会係挨拶

溝 井 周 子（文三年）

四十五年度緑鞍会々員及び前記「いななき」に対する御寄付につきましては、御協力下さいましてありがとうございます。なお、昭和四十五年十二月二十三日現在、会費、寄付金の小計は十万五百円となりました。このうち寄付金は四八口、二万四千円となりました。ここに御寄付者名を載せさせていただきます、厚くお礼申し上げます。

〔順不同敬称略〕

秋元国松（二口）、金子璋男（二口）、相良繁夫（二口）、大塚まりこ（一口）、小山敬吾（二口）、井上恒春（二六口）、中村八重子（二口）、三坂詔子（二口）、米谷浩志（二口）、佐竹京子（四口）、古谷信治（二口）、吉岡まさ江（四口）、平木茂子（二口）、稲熊武臣（四口）、福島保男（二口）。

会費、御寄付徴収の際は現役が大変御迷惑をおかけ致しまして申し分けございませんでした。又四十六年度分につきましては、現役がおうかがい致しますので、どうぞよろしくお願い致します。

九月に幹部交替して、もう早いもので、今年も数える程になってしまいました。今年度の緑鞍会係は私、文学部三年溝井周子と、理工学部二年永井彦之進がとめる事になりましたので、どうぞよろしく御指導の程お願い致します。

さて、緑鞍会のスケジュールも、ひとつひとつ実行されております。お忙しいOB・OGの方々の休日を利用して行っておりますので、御都合がなかつかず、御出席者も限られてしまう事だけが、残念でなりません。

さて、今年度の催し物を御紹介致します。

五月二十二日 緑鞍会定期総会

於青学会館

OB出席者 三十四名

内容は先にお送りした総会報告を御参照下さい。

九月十五日 遠乗会 於 御殿場

出席者 OB（含御家族）

十九名

あいにくの小雨にもかかわらず、多数のOBの参加者を得、明るく、家族的な雰囲気な会となりました。特に現地での豚汁は格別の味でした。

十月十六日 緑鞍会OG会 於青い森
出席者 OG 25名

初めての試みでしたが、平木先輩を迎え、盛大な中にも女性らしい雰囲気の中で、二時間という時間もあつという間にすぎました。この会もたびたび開きたいと思えますので、OGの方々の御参加をお願い致します。

十一月十五日 OB練習会 於綱島馬場

出席者OB八名

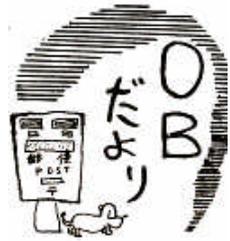
午前中は朝からの雨と寒さの中で、騎乗者は少く、焚火を囲んでの雑談となり、午後は、OB 二部の方々と共に、オリンピック、那須合宿の映写会を行いました。

一月以降の行事予定は未定ですので、追って御通知申し上げます。これらの会等での、先輩の方々との交流を通して、皆様の御意見、御希望をお聞きし、それをもとにして、生きた緑鞍会にして行きたいと思っております。現役一同、先輩方々の暖かい御指導を切に願っておりますので、次回の行事には、是非、御出席下さる様お願い致します。



創作洋品
ホマレヤ
東京都中央区五洲3-6-14
ホマレヤ ビル
TEL (041) 0260代

ネクタイ、ネクタイ止、カフス紐、キーホルダー、スカーフ、傘下、キックレース、靴べら、など全て真の職人が揃っています。



このページでは、今回のいななき用、OBの方々よりいただいた、近況報告をお伝えします。なお敬称は略させていただきます。

山本磐彦御遺族

暑中知見舞い申し上げます。卸存知と思えますが、貴部O・Bの父山本磐彦儀去る四四年十一月十日、八二才で死去いたしました。よって、貴部の生存者名簿より削除いただければ幸いと存じます。改めて、生前の御厚誼を深謝申し上げます。遺族より。

井上恒春 大正十三年卒

残暑御見舞申しあげます。過日緑鞍会の報告書又は夏季合宿予定表など卸送り下されありますがとうございました。益々卸活躍の様子が窺はれ、まことによるこぼしい限りです。尚御通知がありましたので去る十六日のテレビで皆さんの合宿模様を見て、私等が津田沼の騎兵連隊で合宿した当時を思い出しました。

特に印象を受けたことは皆さんがアルバイトしながら愛馬を育てている様子に心が動

かされました。馬は利口ですから皆さんの愛情を充分にくみとって感謝していることでしょう。皆さんの卸活躍を祈っております。皆さんのアルバイトに動かされたのでしよう。僅かですが寄附したいと思っておりますのでどこに送金したらいいのか電話で御通知下さい。

小山敬吾 大正十五年卒

私は大正十五年青学英文科卒で私の在学時に初めて青学馬術部ができたのでその意味で「ob. club」です。当時馬事公苑で練習をし

たのでよく落馬しました。指導は配属校の〇〇大佐だと思っています。今それが若い人たちに受けつがれて伝統がつづいているのをうれしく存じます。又時々卸消息や「いななき」をお送りいただいて若返る思いです。ありがとうございます。寄付とも会費共金壹万円也植松様宛か送りました。今早稲田ゼミナールの理事長をしていて、青学の各教授が御協力して下さいます。

古谷信治 大正十五年卒

少々健康を害して、長期自宅静養中、同期生の各位各自要注意。(六月三十日) つい先日、千乗から知人の御来訪で、学生時代夏季練習合宿等の想出の津田沼、鴻の台、稲毛等の話をいたしました。全々通じません。全くの浦島太郎の時代の変化です。祈御健康。(八月八日)

青山学院の馬術部も随分発展したものだ。

十年ひと昔というが、昔、昔のその昔よりも前のとどだが、代々木練兵場の裏手の井上の馬場で、一時間一円の教習料で始めたのだが、感無量、今や運動神経をやられて、わが脚で歩くさえ危つかしい次第です。せいぜい馬の脚をよくこすってやって下さい。青木 梶両君によるしく。(八月八日)

青木真次 昭和四年卒

小生、老馬なれど元気なり。今回、録鞍全会員稲熊武臣君当社に入社。

平田善行 昭和七年卒

現在は準備と勉強のつもりで富士山麓田貫湖畔の花鳥山脈で動物の飼育の仕事をしていきますが数年中忙は観光牧場と大型鳥類の飼育場をつくるつもりです。できれば馬も飼って馬場の設備もするつもりで当地の乗馬クラブを経営している人とも相談しています。去る八月十六日NHKテレビで那須の合宿風景を見ました。

細野日出臣 昭和十三年卒

人事、総務を担当していますので就職レズンを迎へて試験やら面接やらで多大忙でした。総会等にも欠席ばかりで申し訳ない次第です。目下五十三才半、間もなく定年、閑になったら又顔を出させていただきます。皆さん元気で頑張ってください。(45・8・10)

中越鴻八 昭和十七年卒

一人子も来春大学卒、就職も決定して何となく伸びています。一つこれから大いに人生を楽しみたいと思つてますが現実には仕事に追われることでしょう。スポーツはゴルフぐらいのものです。

沈酒浜 昭和二十八年卒

相も変らぬ勤務振り夏になると休みの多い学生生活がなつかしくなります。

米谷浩志 昭和三十一年卒

家族、母米谷八ツ(七十二才)、妻美奈子(三十五才)、長男公一(六才)、次女昌孝(二才)。自宅にて税理士開業。本年六月より女子事務員一人、全員健全。

秋元國松 昭和三十一年卒

昨夜、TVにて合宿風景を楽しく拝見いたしました。阿部先生、佐藤監督、現役の皆さんの元気な姿をみて暑さの東京で負けずにかんばろうと思っております。家族は妻と長男隆志五才、理子二才、カニ五匹、どなたでもお遊びにおいで下さい。

川端輝文 昭和三十三年卒

すべて順調。緑鞍会の為に今後も協力したいと思えます。(八月十七日) 立秋を過ぎ、朝夕涼しくなつて参りました。八月号いななき他、諸通知有難うございました。皆様方お元気に御活躍の御様子を嬉しく拝見致しました。

古莊敦子（旧姓 小山）

昭和三十三年卒

もうそろそろ子供から解放されても良い頃だと思いたいのですが、十五日は下の子供がやっと三才になり例の七・五・三です。生まれて初めて着物を着るのでどんな事になりますか。とにかくおばあさまが大ハッスル、楽しみにしておりますので、親孝行のつもりで付き合います。NHKのTVは拝見致しました。なつかしい佐藤氏によろしく。

上原淳子 昭和三十四年卒

家に居ります。

張間陸途 昭和三十五年卒

馬の方には、すっかり卸無沙汰して申ありません。最近はおつばらゴルフの方で下手なりに楽しんでます。すでに二児の父親となり、親馬鹿ぶりをハッキリしています。

永井豊子（旧姓 五十嵐）

短大昭和三十五年卒

馬から離れて六年になります。三人の子供が大きくなる頃には又、乗馬服を着たいと思います。

山内紀美枝 短大昭和三十五年卒

部からのお便りを頂く度にイニシエを思い出してはあの顔この顔となつかしんでます。福岡又は小倉に卒業生の方がいらしたら御住所お知らせいただけませんかでしょう

か。緑鞍会小倉支部の山内家に於きましては、五、四、三才の女野武士共が連日武道に励んでおりまして、その師範たる吾が身は馬術部会どころではない現状です。行く先、馬に乗せるべきか否か目下思索中。ところで私はお金をおさめたるや？おしらへを。

藤沢英治 昭和二十七年卒

九月末に会社の本社ビルが青山学院大学の裏側に移転いたしますので機会があれば現役の者にはコカ・コーラでも飲みに来るよう（もちろん無料で）伝えておいて下さい。

鈴木宏志 昭和三十八年卒

後輩諸君の活躍ぶりをTVにて拝見す。我れもまた皆さんに負けずに仕事に励んでおります。健闘を祈る。

花村紀彦 昭和三十八年卒

昭和三十八年三月経済学部商学科卒業直ちに大日本塗料に入社来今日まで営業一筋歩んでおります。あなたの三菱世界の三菱をモットーに販売戦線に処しております。小さな会社ですが将来は大木になるでしょう。

中川和子（旧姓 高橋）昭和四十年卒

松本からやつと東京に帰れました。先日のテレビで、学生時代の楽しかった馬術部生活を思い出しました。阿部先生にもよろしくお伝え下さい。機会を見つければ、試合を拝見しようと楽しみにしています。

福熊武臣 昭和四十一年卒

元気で。

柏原浩子（旧姓 木原）

昭和四十二年卒

本年度の卒業生で私達の学年と共に過した現役は居なくなり、全く遠い存在のように感じられます。網島とはいよいよ離れてしまいました。現役の皆様の日々の鍛練と卸活躍を祈っております。

大塚まりこ 昭和四十四年卒

祐天寺の裏でひっそりと暮しております。独身時代よりも、ひまができて、時間がもつたないようです。伊納君が全日の障碍で優勝したことを聞き、祝杯をあげました。本当におめでとございませう。いつ聞いても、勝ったという報告はいいものですね。これからも、がんばって下さい。

管内道子 昭和四十五年卒

間近に結婚式をひかえ、毎日その準備におわれ、気ぜわしい日を過しています。皆様どうぞ、青山学院馬術部の為、よい成績を残される様がんばって下さい。

以上で、OBだよりを終ります。緑鞍会の皆様、どしどし近況をお知らせ下さい。お待ちしております。

一部記

主将挨拶

主将 小川 藤夫

現在、我々のクラブは、総員約名で運営しています。実際に活動しているのは名程度です。自馬は、青鬃、青駿、青鷹の三頭となっています。この内、青鬃は新馬で、最近買ったものです。OBの方に、買う際に、大分やつかいになったようです。飛越能力に秀でているので、この馬で来年は、何とかいい成績をと部員の期待を一身に集めています。練習は、早朝練習と通常練習の二通りに分かれて行っています。早朝は、五時半より八時まで、通常は、八時より十時となっています。通常練習は別に問題ありませんが、早朝練習は、女子には少々体にきついように思います。しかし、皆よくやっています。通常練習者は、「さくら乗馬会」の御好意で、アルバイトをさせてもらっています。自馬の入手をした後、又、乗馬会の馬の世話というのは、大変ですが、お金の為とあって、皆よくがんばってくれています。また、我々は、ダンスパーティーを開いて、金をかせいだりしています。今年も、十二万程もうけました。しかしこの内かなりの利益は、現役とOBのかぶりとなってしまっているでしょう。

最近仕事を持っている部員が少い関係

で練習量が多いでしょう。一部と練習時間では差がないかも知れません。

これからは、一部の方々の御協力をいただいて、一部の方々と接触を数多くしたいと考えておりますので、よろしくお願ひし



高 等 部 記

高等部係 桑 田 貢

我ら十二人、昭和四十三年に入部以来、四名の高等部係の方に御指導を授けました。ここに卒業なされた二人の方について書いて頂きます。最初は、安田義生氏でした。彼は、ちよつと太りきみの方で仇名をジノキと言いました。彼のジノキの得いとする所は、発声練習と前輪姿勢で、発声練習の時はよく、我々の声が聞こえないと、着ていたシャツを振りかざし、「だめだ」と奴囃りました。この御言葉を開くと、我々はまるで、現世の終りを宣告された心境となりました。また彼の前傾姿勢の苦しさと云う物は、誠に計り知れない物であり、我々の仲間の池田嬢は、その苦しみのため脳細胞の大半を破損してジノキ最中に、「安田の、バカヤロ！」と奴囃りました。そして、入部当時三十数名を数えた部員も

この二つのジノキによって十数名に減りました。

二番目の方は、曾我正晴氏でした。彼は、ハマツ子だったせいもあるかもしれませんが、まあダンディーと言つか、センスがいいと言つか、二つを交ぜたような方で、彼の試合の時など一部的女子が必ず写真機を持って行くと言つ事が常になると同時に、我々男子にとつて、誠に不満とする所でありました。

色々変な事を書きましたが、どこの学校よりもよいコーチに教えて頂いて、大変幸せだと思つております。

「だいなし」

高等部三年 池 田 真美子

その一 前書き

高校生活、私のそれは一から十までクラブで成り立ってクラブで説明されるのである。

その二 ひとりごと

色々な出来事をみんな通り抜けてきて、今は頭の中にボカツとそれらが浮かぶだけ年をとつたのかな、思い出を追いかけながら、覚えてる？一年の時、二列になつて集合した事、合宿の草刈り、インターハイの屈辱綱島から去つていった馬たち、冬の朝の寒さ女子おとくいのきゆうりの三杯酢、プスとヌゲ、那須の空のあの青さ

……でも、もう過去の事なんだ、つまんないの。

一人また一人と仲間が減つて残つた三年生は男子三人女子八人。この計十一人、私が考えるに個性と個性の集合体だわ。よくもまあここまてやってこられたヨ。いろいろもめたつけ、コーチともぶつかつた事あつたんだ。御迷惑をおかけしました。紙面をかりてお詫び致します。でも、それも思い出、三年間なんて短くて、ドヤドヤしているうちに過ぎて行く。実はあと四日で三年生として最後の試合があるんだけど、勝ちたいと勝つてもらいたい。考えるに、大学の試合には高校生、よくかり出されたけれど、高校生の試合を見にきてくれた大学生は限られていたみたい。さみしいんですよ、なんとなく。

その三 後書き

私の大事な高校生活！馬と綱島とそして『青山学院高等部馬術部』と



各種玄関マットの調整・販売・各種建物清掃管理 資材販売

minatoya

有限会社 港屋佐藤国平商店

東京都千代田区神田神保町1丁目44番地
TEL 394-3856 (代) ~ 8 番
取引銀行 東京都民銀行新宿支店
日本郵政銀行神田支店

佐 藤 一 貢 (明33年卒)

『 夏 合 宿 』

45年度夏期合宿は、馬の練康という事を考えて、涼しい那須高原で1ヶ月行いました。気候的には申し分なかったのですが、1ヶ月という長期に渡ったという事と、やや経費がかかったという点を考えて、来年以後の合宿等の参考資料とするため、ここに、各部員よりアンケートを取ってみました。



那須合宿アンケート

(大学生三年以下)

内、右は男子・左は女子

質問	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 那須という場所	9	4	13	2	2	1	13	3	14
2 馬房について	2	0	2	1	1	1	2	3	5
3 馬場について	4	2	6	2	6	2	6	4	1
4 宿舍及び生活面	3	4	3	5	5	7	4	10	0
5 バイトについて	3	3	2	2	2	4	4	6	1
6 費用について	0	4	4	8	8	6	4	10	0
7 馬にとってどうか	4	2	4	4	4	4	2	6	13
8 那須合宿全体を通して	9	4	9	0	0	0	0	3	14
9 来年も那須の様な所でやりたいか	9	4	9	0	0	0	0	3	14

良い 普通 悪い

やりたい やりたくない わからない

意見

1 について

- ・ 遠いという欠点と涼しいという長所
 - ・ 東京から遠く高原で空気が薄く蚊が多
 - ・ 涼しくて人間にとっても馬にとってもよかった
 - ・ プヨなどが多くてわるかったが、涼しい点はよかった
 - ・ 人馬共に良いと思った
 - ・ 涼しくて良いが場所が不便
 - ・ すてきな所です
 - ・ 涼しいという話だったが雨が降り降ってひどかった。
 - ・ 高原で空気がさわやかで意気さかんになれてよかった
 - ・ 空気がきれい
 - ・ 雨がふりすぎ
 - ・ 雨の為私達の場合良いとは言えないが本当はきつと良いのでしよう
 - ・ 雨さえ降らなければ
- ### 2 について
- ・ 仮設の馬房がひどすぎた
 - ・ 床が土のため非常にそうじしにくかった
 - ・ 掘立て小屋の馬房はせまいし馬は出しにくいし土の床は最低だった。
 - ・ 片方だけは良かった
 - ・ 設備不十分
 - ・ 前半の合宿ではインスタント馬房に入られた馬がかわいそうでした
 - ・ 建物はしっかりしていたが床が土だっ

たため馬房のそうじが多少やりにくかった。

- ・ 良いと悪いの差がはげしい
- ・ 広く清潔でよい(特に 馬が頭入った方)
- ・ 悪い方はテツティブ的に悪い
- ・ 良い所はよかったが…
- ・ 飼料置場の方の馬房が非常によくない
- ・ 本馬房より、仮馬房わるい
- ・ 馬房は三力所に分れていたが、そのうち二力所は風通しがよく、よかった。

3 について

- ・ 大きさは普通だと思いが、砂地でなかったので雨の時めかるんで足をとられたりすべったりして危かった。
- ・ 雨が降ると馬場のコンディションが非常に悪くなるが、走路などもあり楽しかった。
- ・ 小石が多かった
- ・ せまい、下が悪い、走路があるのは良い。
- ・ せまかった、雨が降るとぬかって馬が運動しにくいようだった、しかししかたがないかもしれせん
- ・ 那須という場所からいってあの程度が良い方ではないか。
- ・ もう少し広くてもいいようです。鏡があつた方がいいようです。
- ・ せまく下が悪いぬかっています。
- ・ 雨天の日が多かったのでぬかっています。
- ・ 地質が悪い
- ・ ぬかるみだつたのであまりよくなかつ

た。広さは広い方が良いがさして狭いとは思わなかった。

- ・ 雨の為ちよつと土が多すぎた。

4 について

- ・ 合宿所はあんなものだと思う
- ・ ちよつと起床時間が早い涼しいうちにやるほうがいいから普通です。
- ・ 大学男子の合宿の宿舎は、一部屋にしたらあのくらいのもたと思う。
- ・ 食事が悪かった
- ・ 宿舎は馬房と遠かつたこともあるが全体を通して規律正しい生活ができて体のコンディションもベストで良かった。
- ・ 板の間だったので、食事のあとの小休止や昼寝の時などくつるぎにくかった。
- ・ 板にじかにふとんをひくのも不潔に感じた。夕食と入浴時間との間に休みがほしかった。
- ・ 食事はあまりおいしくなかつた、お風呂はのぞきがいだし汚なかつた。部屋も使いにくかつた。
- ・ お風呂の時間のけじめをはっきりしてほしい。
- ・ 結構きちんとしてきた様です
- ・ 特にお風呂がひどかつた

5 について

- ・ かなりきつかつたが、トレーニングとして良かった
- ・ 非常に人生勉強になった
- ・ 収入があつたが非常に疲労した
- ・ 寒かつた。

・ 想像していたようなきつい仕事でもなく、涼しく、労働者の人達も親切でとてもやりやすいバイトだった。

女子

- ・ 曳き馬は楽でした。
- ・ バイトそのものは面白かつた。
- ・ わりと楽たつたのに高くもらえた。
- ・ ないにこした事はないと思います
- ・ バイトとしては面白かつた
- ・ そんなに大変でなかつたので費用がたすかる分たけよかった。

6 について

- ・ ちよつと高すぎると思う
 - ・ 場所がそれにしては高かつた。
 - ・ 出来ればもう少し安くできないか
 - ・ 他のクラブからみれば少々高いようであるが馬術部という特殊なクラブを考えた場合また期間が長かつたことなどから妥当であると思う
 - ・ 六日間費用としては高いと思う。
 - ・ 少し高いかもしれせん
 - ・ バイトしたり日数が少ないのに高い
 - ・ 高いけれど事情を考えれば妥当
- ### 7 について
- ・ 涼しいのは良かったが、虫が多すぎたと思う
 - ・ 気候もよかつたし、飼も良好であつた
 - ・ 広い所で馬も伸び伸び来て、馬にとつては非常に良かった。プヨがいなければ最高たつた。
 - ・ 馬が思ったことなどわかりません

・涼しいという長所、虫が多いという欠点

・綱島へ帰った馬がじつとり汗をかいているから那須は涼しく雨に楽だったらしい。

・虫が多い、ぬかるみが多くすべる
・アブとブヨが多かった
・よいと思いますが虫が悩みの種です
・馬が生生きしていたので馬にとつては良かったと思うのだが…

8について

・スケジュールがきつかったが、終わってみれば良かった
・人馬にとつて良かった
・馬が合宿所のそばにいればなお良かったと思う

・得るものが漠然としていてない
・短いけれど雨ばかり降ってとてもいやでした
・雨が多かった
・雨がふったのは残念だったが練習はできたから良かった。

9について

・少しぐらい遠くても涼しい場所です
・やっぱり合宿は涼しいところの方がいいです
・涼しい所でやりたい遠くても
・馬の為に、涼しい場所を探したい。
（なるべく費用がかからないように）
・馬はつれていった方がよいが、もう少し近い所がよいと思う。

・来年も今年のように馬をつれていった方がよい。
・那須で良い
・馬の休養の為に、よいと思います

10その他この合宿で感じたこと

・上級生とも親密感がましてよかった
・後期合宿にいった時、女子のだらしないさに驚いた
・男子合宿の場合前期の方はまだ良かったのですが後期にやつた時、上級生の方々が、マンネリ化していたような気がします。
・アブとかブヨがいなかったらもっと人馬とも快適に過ごせたのではないでしょうか。

・部員の清掃に各自が心がける様にしてほしい。
・悪天候にもめげず、割合個々に得るものがあつたと思います。
・雨が毎日降っていた為、雨にたたられた合宿という印象が強い。
・馬にのる時間そのものが、短かった。毎日雨でうんざり。
・雨が多くてユウツでした
・宿舎から馬場まですこし距離があつて、往復だけにつかれました。
・雨天の日が多かったのが残念

追記
期間 八月一日〜九日 大学男子
十一月〜十六日高等部

十八日〜二十三日 大学女子
二十五日〜三十日 大学男子

1 女子の期間中全日雨であつた
2 本馬房、飯馬房、合宿の為に造つた小屋馬房の三ヶ所の馬房を使った。
3 角馬場、丸馬場、走路の三種類
4 一泊二食、五〇〇円を三食一、〇〇〇円に値切つた為会議室に入れられた、但し高等部、大学女子の時は二・三個室（六人用）が取れた。又、女子の都合他校の男子がいた為風呂時間を制限された。

5 男子は藤田組の土方
女子はハイランド乗馬クラブの手伝い

なお、この欄を借りて、合宿中差し入れをしていただいた先輩及びその他御協力いただきました諸先輩各位に対し、厚く御礼申し上げます。同時に今後共よろしく御協力御願いたします。



デー・スナック
青山学院校
Tel. 409-7309

夏 期 合 宿



吉 川 徹
(経一年)

八月一日午前三時、あたりは寝静まり、また暗いころ、みんな一斉に飛び起きて、馬輸送の準備が始まりました。NHKが我々の合宿を取材するというので、みんな意欲と希望に燃えての出発です。馬を無事、「馬運車に乗せ、輸送の途中、「くつろいだ雰囲気、お互いに楽しく話し合つて下さい」という、背中がむづがゆくなるようなNHKの注文にも応じ、長い長い道のりの末、昼すぎやと那須の合宿所へ到着しました。そこには立派な厩舎が立つており、これならばと安心したのですが、既に他の大学が来ていて、我々は隣りの厩舎が小さく見えまあと、急場造りの厩舎に甘んじなければなりません。しかし、馬にとつては、綱島のうだるような暑さに比べ、この涼しい厩舎（尤も蟻や蚊はうようよいたけれども、は天国のように快適だったに違いありません。夜になれる、合宿中の一日の時間割が張り出され、「クラブは馬術部、先輩は神様」の軍隊的規律と、「朝まで弱い」僕にとっては、信じられないほどのハード・スケジュールでした。そしてこれでもいいのかなあと思いつながら床についたのです。

朝四時半、「起床!!」の声で一日が始まります。まだ太陽も顔を露さない其暗な中を、馬場まで駆けて行き、準備体操のあと、寝ワラ作業をし、馬装をして、五時半練習が始まります。その頃にはお陽さまも、まるで僕達の練習を見まもっているかのように顔を見せはじめるのです。燈上げは若しかつたけれど、先輩の気合の入った注意や、楽しい障害、走路回りなど、とても充実した練習をすることができました。朝飯を食べ、九時から馬房の修理、馬具の手入れ及び草刈り等をやり、その後、ランニングと発声練習です。僕の長靴が新しいせいもあって、両足のかかとの皮膚がペロツとめくれ、とてもランニングはつらいものとなりました。発声練習は、先輩が米粒(?)ほどにしか見えないくらいの距離から、B馬場の経路やカレッジソングを大声で歌うのですが、何日も繰り返すうちに声もだんだん出なくなり、この野郎(失礼)と思いがらやったものでした。食事の用意は、我々、三人の奴隷の仕事です。用意ができる

と、五人の天皇と、二、三年生の先輩を呼びに行きます。昼食は「肉が入ってないじやありませんか」のねぎとんなどいつも質素なもので、量も少なく、かん詰を買ってきて食べた日もありました。午後は一時から毎年恒例の整地作業です。合宿の前には土方なんて大変だなあと思っていたのですが、仕事は比較的楽で、また、そのうちに要領も心得て適当にさぼったりもしました。しかし那須高原といえども、やはり日本は夏だったのです。太陽は容赦なくさらさらと照りつけ、ほこりまみれになっての仕事

は、フロをととても恋しく感じさせるものでした。五時に作業を終え、宿舎に帰って入浴です。これも勿論上級生から先で、我々三人の奴隷は一番あとから急いで入り、そのあとすぐ夕食の仕たくにとりかかります。夕食中はパイットの事やその他雑談をし、楽しいひとときを過ごします。七時半からはミーティングが始まります。その日の練習で気づいたことを皆で話し合い、あすの進歩のために備える、とても有意義なものでした。これが終ると、消燈まで自由時間なのですが、三人の奴隷は、床の用意をしたり、長靴を磨いたり、まだ仕事が残っています。そして九時半には消燈し、これで合宿の一日が終わるのです。

合宿は、時間に追われ、苦しいと言えは苦しいかも知れませんが、立派な諸先輩、自分に対して厳しく、馬術に熱心な伊納さん、清潔好きで、下級生思いの曾我さん、人間味温い六平さんミーティングの時にはいつも適切なアドハイスをして下さる山本さん、練習中は大神様でも、練習を離れるととても愉快なオラオラ、鼻血ブー(皆さんおわかりです)の飯野さんたちとの楽しい合宿は、後になって思うに、何か一つことをやったという充実感を覚えさせてくれるものでした。そしておわりに、伊納さんが最後のミーティングのときおっしゃったことば「この合宿の成果はすぐには出ないかもしれないけれども、きっと何らかの形で意義あるものとなるよう、今後も一生懸命馬に乗ってくれ」この言葉を肝に銘じてこれから一層

努力しようと思ったのでした。

合宿記

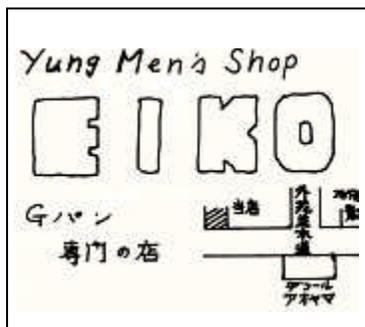
神崎道子

(文一年)

連日雨という中で合宿は行なわれ、朝四時半起床。那須高原の朝は気持ちがいい。時々みせた透るような朝日をあびて馬術にいそむのは格別であったし、ピシヨぬれになって乗ったのも又合宿ならではの経験だった。

午後のトレーニングも雨の中でやった。顔中にあたってくる雨におかまいなく大声で怒鳴って歌った応援歌。天に向かって「雨よ降るな。」と抵抗している感じでちょっぴり悲痛でいじらしかった。中で一番苦しかったのは前傾姿勢。全員がブルブルふるえて苦しんでいるのはさすがにおかしかった。三人しかいない一年生にとって夜は何かを感じる時だ。二年の大集団に時間をくわれ、オフロもほとんどカラスの行水。自由時間も二年のキヤーキヤー、八八八に対しヒソヒソ、フフフになってしまう。またまるのは早いけど、やっぱりもつといればと思っしまいました。就寝前のミーティングでは反省と馬学、熱気にあふれていたため妙に緊張してしまつた。合宿中の一週間で自分の欠点が見つめたのもこの時の反省からできたのだと思う。「この合宿ではみんみな上達した、でもこれが本当に自分のものになるのは合宿以後の

網島の練習にかかっている。」最後のミーティングで上級生の言われた言葉だ。この合宿の本当の仕上げはこれからだ。



夏の合宿の反省

小勝とみ子

(高一)

那須高原での合宿で心に残っているのは景色がよかったこと、ピーターたちがかわいかったこと、そして草刈りのこと。早朝、高原での乗馬は気持ちよかったです。ハイランド・パークの馬に乗ったことは無駄ではなかったし、あんなにたくさん草を刈ったのは、初めてだった。

二、クラブ運営について

(イ) 体育会員減少について

体育会員の減少の問題は、入部する人数が減ったのに対し、やめる人も少なくなつたので残る人数は、あまり変わらないが、質が低下したといえる。

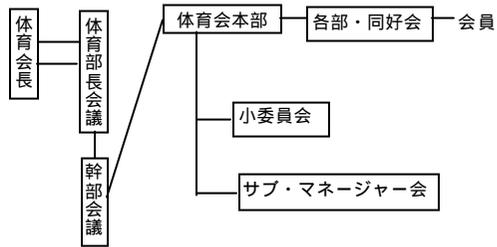
減少の原因として、自分の時間をあまりとられたくないことと、スポーツをレジャーとして楽しみたいという人が増え、クラブの苦しみがつかるうという人間が減つてきた為だが、その少ない部員を上級生がどのように指導していけばよいかという問題が浮び上ってくる。

上級生と一年生の考え方の遠いでミソ(断絶)ができているが、話しあう場を多くし、部員としての認識、責任を与えるようにし、よい意味の封建性を、残すようにして、運営のやり方に対する不満などでやめないようにしたい。

力の差によるクラブ員の分離はよくあることだが、どのように解決したらよいのか？
下級生の悩みを聞く機会としてミーティングよりむしろ個人的に出かけたりして聞く方が効果があるといったクラブが多かった。
下級生に厳しくする前に幹部が自分に厳しくないと、特に今の下級生はついてこない。



[体育会組織図]



会計報告

会計 高橋正樹

馬をやるには金がかかる、金があるから強いら、巧いら、あの学校の馬術部は金があるから勝つたんだ、そのような言葉をよく耳にします。
そして、この青山学院馬術部でも九頭馬を維持していくのに、年間二八〇万円か、クラブの活動をしていく上に、それだけの金がかかっているのです。

の金がかかるために、クラブ活動の本当の意味からは、はずれてしまいかもしれない。バイトもやらざるを得なくなっています。そしてバイトからの収入が、現在のクラブにおいて最大の収入ともなっているのです。しかし我々にとって、よい事は他の学校とちがって、競馬場で馬と接する事のできるバイトであり、新馬を入れる時なども、常に大きな助けを得ることができることです。この一、二年部員数が減る一方で、一とくらべると半分以下の人数となつたため

収入 2,835,364- 支出 2,798,488-
次期繰越 36,876 -

収入の部		支出の部	
前期繰越金	1,794-	連盟費	26,000-
学生会予算	320,000-	試合費	44,500-
負担金	853,750-	宿泊費	297,720-
寄附金	133,000-	用具費	399,625-
雑収入	1,501,370-	事務用品費	7,092-
		体育会費	19,400-
		新聞図書費	1,720-
		交通費	241,030-
		厚生費	74,283-
		維持費	387,935-
		修繕費	46,430-
		通信費	12,706-
		交際接待費	48,462-
		雑費	32,875-
		消耗品費	18,710-
		役員報酬	140,000-
		次期繰越金	36,876-

アルバイトの人数も、威らざるをえなくなり、預託馬が出厩したのを加えたりすると、なんだかんだ約月に四万円の入りを、失なう事となつてしまいました。
以前から、クラブにたまっていた借金を、私が会計になったら会計を、次の人間と変わるまでに、なくして変わりたいと思つていきましたが、最近はそのどころか借金は増すばかりです。現役の方々、OBの方々とも、借金をなくして正常な会計になるために御協力をお願いいたします。

四十五年度試合報告

東都学生自馬競技大会 (昭和45年4月11日・12日)

- ・新人障害
 - 木村(4) 青留 0 三位
 - 飯野(4) 青駿失権・高橋(3) 柏青失権
 - ・中障害
 - 伊納(4) 青留 -4 六位
 - ・複合馬術
 - 伊納(4) 青留 94.4 十四位
 - ・新馬障害
 - 伊納(4) 青冠 失権
 - 曾我(4) 青苗 "
 - 六平(4) 青朋 "
- 関東学生馬術争覆戦 (昭和45年4月24日・28日)
第一試合

青学 303.0
山本
高橋
伊納
原野
学習院 -41

関東学生馬術選手権 (第一次予選) (4月27日)

・男子

- 六平(4) 17.5点
- 伊納(4) 18点
- 山本(4) 18.8点
- 原野(3) 14.6点
- 女子
 - 三宅(4) 5点
 - 芳野(4) 6.7点
 - 斉藤(4) 7点
 - 佐倉(2) 7点

(予選通過)

東京馬術大会 (5月9日・10日)
・バルクールド・シャツス

- 伊納(4) 青冠 0
- 六平(4) 青朋 失権
- 高橋(4) 柏青 "
- 原野(3) 青留 -4

・中障害
伊納 青留 -23

・B馬場 (男性班)
永井(2) 青駿 17位 (43頭中)

- 治部(3) 柏青 4656.5
- 16位
- 9位

小林(2) 青駿(オープン) 50
・B馬場 (女性班)
小森谷(2) 青駿 54
上野洋(2) 柏青 51
山本(4) 青貴 38.5
15位

・点取少障害
曾我(4) 青苗 3点
山本(4) 青貴 失権

関東大学馬術選手権 (5月20日・21日)

・中障害 (二回走行)
伊納(4) 青冠 -16
六平(4) 青朋 失権
高橋(4) 柏青 失権
原野(3) 青留 -2
山本(4) 青貴 失権

(合計 -16)

関東学生馬術選手権 (5月22日・24日)

- ・男子 (決勝)
伊納(4) 90.25 16位
- 渡辺(3) 513点 二位
- 佐倉(2) 125点 四位
- 女子 (決勝)
伊納(4) 90.25 16位

対東北学院大学定期戦 (5月31日)

・障害団体戦 (治部、原野、高橋、小林、永井)
我校 72.2 差をもって

都民大会 (東京都乗馬大会) (6月7日)
・B馬場 (新馬)

六平(4)	青册	57	50.5	七位
山本(4)	青貴	57	50.5	五位
・B馬場(一般)				
高草(2)	青駢	52		八位
高橋(4)	柏青	41		一九位
千葉(2)	青駢	48.3		十位
・新馬障害				
山本(4)	青貴			失権
六平(4)	青册			失権
伊納(4)	青冠	-4		三位
・学生障害				
伊納(4)	青留	0		二位
六平(4)	青册			失権
山本(4)	青貴			失権
伊納(4)	青冠	-12		失権
・一般障害				
佐藤一貫(OB)	青留	-4		
青冠		35.25		
青册		失権		

対立教大学女子定期戦 6月13日 於立教大学馬場				
・障害団体戦(渡辺し・平井・上野洋・佐倉・上野か)				
我校x...	立教	50.25		の差をもって
関東学生新人馬術大会 6月27日				
・障害				
原野(3)	柏青			失権
高橋(3)	青冠	-7		
治部(3)	青留	21		
関東学生女子自馬競大会				
・団体 第3位				
障害				
芳野(4)	青留	-3		7位
選手権馬場				
齊藤真(4)	青駢			
渡辺し(3)	青留	-31.67		.2
馬場				
三宅(4)	柏青	-34		
平井(3)	青駢	-59.3		4位
佐倉(2)	青貴	-59.6		6位
オリンピック記念馬術大会 9月5日・6日				
馬場衝競技				
婦人				
上野か(2)	青駢	50		
学生				
渡辺し(3)	青貴	-54.1		3位
高見(2)	青駢	-41		
喜多井記念障害				
予戦				
伊納(4)	青留	-8		
決勝				
伊納(4)	青留	-8		
標準障害				
新馬の部				
曾我(4)	青苗			失権
学生の部				
伊納(4)	青留	0		馬位

アバロン大会 10月17日・18日				
・中障害A				
山本(4)	青貴			失権
原野(3)	青留	-4		
・選抜中障害				
原野(3)	青留	0		4位
・小障害				
伊納(4)	青冠	0		
原野(4)	青册	0		
原野(4)	青漂	-4		
曾我(4)	青苗			失権
国際親善馬術大会 10月3日・4日				
・中障害B				
永井(2)	青留	0		6位
山本(4)	青貴	-7		
・B馬場馬術(一般)				
小林(2)	柏青	42.33		
星野(高)	青駢	49.66		
少年障害				
豊田(高)	青留	-4		
塚原(高)	柏青			失権
・B馬場(婦人)				
植木(2)	青留	46.7		
関東学生自馬對抗競技大会				
伊納(4)	青留			馬場
原野(4)	青駢	-80.6		広地
高橋(4)	柏青	-75		失権
キケン		-75.7		
余力		0		

事項	標準障害	総合競技	
		耐久	余力
1 障害個数	15	20以上	12
A 障害の高さ	80cm~130cm	80cm~120cm	80cm~120cm
B 障害の幅	100cm~150cm		100cm~150cm
3 距離	900m	3000m~3500m	720m
4 速度	350m/min	350m/M~400m/M	350m/min
5 審査基準】	国際規定A基準表	国際規定(総合) 増減点規定を除く	国際規定(総合)
6 其の他の基準	(1) H.130 2個 (2) H.120 3個 (3) 二段飛び障害 1個 (4) 三段飛び障害 1個	(1)H.120 5個 を必ず含むこと	(1) 水濛(2~2.5W) (2)二段飛び障害 (a垂直xbオクサー) を必ず含むこと (3) 経路は複雑にすること

優勝
全日本馬術大会
伊納(4)
青留
0

4位
伊納(4)
青冠
53.6

・B馬場
・新馬馬場
柴田(高)
青駿

やまどり・馬料理

鶏小屋

東京和牛野正行馬場5丁目57~2
ウツシマ・ソトアルビル1F
TEL (386) 0093
村野 吉政 (32年経営)



全日本学生障害馬術大会(大井競馬場 月2日 ・二回走行 一回目 二回 目 伊納(4) 青留 -4 -4 5位	全日本学生女子選手権大会 ・予戦(馬場 渡辺し(3) Dブロック 56 (予選通 渡辺し(3) Bブロック 47.3 ・準決勝 (馬場) 障害 佐倉(2) 決勝 渡辺し(3) 82.6 0 (準決勝通過) 渡辺し(3) 169 129.5 2位	全日本学生三大競技要点	サンジョルジュ賞典馬場馬術競技 要点 馬場馬術の要点は、一口に言って騎手が いかに馬を手の内に入れて運動させている かという事である。そして審査の対象とな るのは、手の内の入れ方の良し悪しである 馬場馬術における運動課題は、馬がいかに 手の内に入っているかを立証するための手 段なのであって、決してその課題を行う事 自体が目的ではない。しかし現状において 見られる限りでは課題を消化する事のみが 目的となってしまう様であり、本当
--	--	--------------------	--

はこの様な馬場運動は審査の対象にはなら
ない。極端に言えば、経路違反を気にする
より、むしろいかに馬を手の内に入れ、う
まく運動させるかに重点をおくべきなので
ある。

障碍の場合についていえば、障碍を落とさ
ずいくつ飛んだかという事に馬術的価値を
見るのではなく、馬をどんな歩度でどの様
に誘導し、どういった飛越体勢で飛ばせ、着
地し次の誘導をするかという事に馬術的価
値を見出すことである。

乗馬は、まず騎手の脚の強さに比例した推
進氣勢を示すような馬でなければならぬ。
馬場内においては、馬のリズムにまきこま
れず、馬を人のつくったリズムにのせ、
馬術的美しさをもった常歩、速歩、駆歩を
させる事が要求される。つまり、引き馬の
時の速歩と馬術的速歩(人の推進による速
歩)とは全く違つのであって、馬術的速歩
は弾発があり、リズムをもった速歩なので
ある。この様な速歩でなければ馬術的審査
の対象とはならない。運動の基本となるの
は、馬術的に常歩、速歩、駆歩をさせるこ
とであり、騎手のつくったリズムを各運動
アビユイエ、ビルトエツトにおいてさえも
保たなければならぬという事である。仲
長、尋常、短縮においても歩幅の差だけ
あって、リズムはくすくす又、推進によつ
て促す馬のエネルギーも同じでなければ走
らないのである。

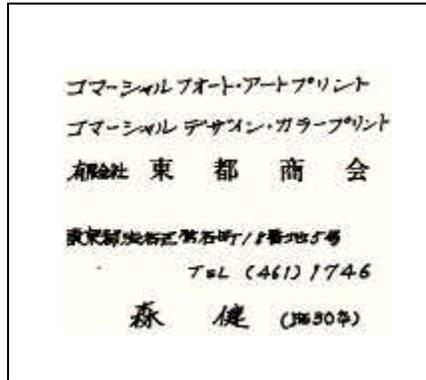
(附)
要するにリズム正しく活気ある運動をす
る為には、馬体の柔軟性、馬の筋肉の発育

に感じた推進を与えることを、日々繰り返すことにより、徐々に理想の段階に達した場合には、馬が全能力を發揮しつつ運動するようになるべきであって、このような状態になれば、短縮歩の収縮度を減ずれば歩幅を増し、尋常歩になり、さらに伸長歩になるのである。伸長歩にする為には、持別の推進を必要とするようでは本物とは言い難いのである。

各課目の要点

1. 駆歩でまっすくに入れる。(経路馬体、まがらないようにするには、脚と手綱ではさみ、まがった場合は脚で横によせていくような感じで中央線上に導く。
2. 沈静、歩度、歩調と移行
3. 内方脚をしつかり使う
4. 伸長と移行
5. アビュイユ。後駆が先行しないようにする。中央で一・二歩まっすくにしてから左へアビュイユ。
6. 停止の正確と出発
7. 5と同様に。
8. 伸長。各歩度の移行
9. (半ビルエットの整齊。
10. 短縮常歩とその整齊
11. 出発の正確。沈静と短縮
12. 停止を確実にする。駆歩からの停止は急激に行つてはならない。
13. 逆手前の輪乗り。腰が外へ極端に出ないようにする。
14. 伸長と短縮。各歩度の移行

18 17 16
アビュイユの正確。馬体の態勢と屈接
半ビルエットの整齊



網島日誌



- 19 16と同様
 - 20 伸長、短縮とその移行
 - 21 中央線上で踏歩変換を行う
 - 22 内方脚でしつかりかさえ、蛇行しないようにする。
 - 23 停止。後退及出発への移行
 - 24 停止の正確。馬の沈静
- 総合観点の要点
1. 一定のリズムを保ち、走幅の差だけで伸長、尋常、短縮を行なう。
 2. 前後左右の柔軟を要求する。運動の起、終が敏感に即座に行なわれる。

〔提供 全日本学生馬術連盟〕

以上は、全日学生より送られて来ました。三大競技の要点ですが、三大競技に限らずふだんの練習、試合にも役だつと思えますので、参考にして下さい。

なお、本年度の三大競技、標準障害二回走行において本校の青留号が、五位に入賞しました。

・昭和44年・9月24日

やっと日誌ができました、せつかく作つたのですから毎日書く様にしましょう。

9月25日

午後三時半頃、柏青号発汗おびたたく粘液性下痢症状、水飲良、ただちに曳馬へ

伊藤獣医不在の為、北村、青木獣医に連絡、体温三十七度七分、午後五時頃、近所の村田獣医来る、腸夕動促進の注射、曳馬、七時頃血便しだいに多くなる、八時三十分村田獣医来房、カチーフ二〇ccリンゲル五百ml、原因不明

9月26日

柏青号血便有り、七時村田獣医来房カチーフ注射、風天地をさかんと吹き荒るなか、午後10時15分柏青の曳馬開始。育苗号、調子良好一二〇cmの単一横木をスイスイと飛越す。(里中)

9月27日

午後4時、5時柏青曳き馬、午後9時、伊藤獣医来房、リンピタン注射、鼻孔より水を飲ませ、また腸整済を吸入させる、青草を入れないふつうの飼を少なめに与えてもよいということである。

9月25日

柏青少しづつながら水を飲むようになって、飼は食べないが青草とネワラを食っている。

9月29日

柏青夕餉は青草と、えん麦(0.3)ふすま(0.5)を与えた、よく食べていた。月曜日の午後当番に今日より、池田 高

橋洋子に加わったので、作業に余白がでてきた。これから半年間ぬかりなくやろうと思っている。(六平)

9月30日

本日ガレート号追悼式並びに愛馬慰霊式行う。柏青が口有り。

10月1日

本日は初めての男子練習日であった、あいにくの雨にもかかわらず、みんな一生懸命に練習にはげんでいた。

柏青の具合は大分良い。明日という字は明るい日とかくのね、明日天気になあれ。

10月2日

鶴田 午前当番さぼり、夕方母より電話有り、一週間病気の為休部とあいなる。

10月4日

マトマリがよく、試合前としては、大変良かった。一年生(女子)も今日は乗れてよかったであろう。

10月5日

装蹄をやりました
高校女子B馬場馬術競技開催(於日大藤沢馬場)

団体優賞：日大高校
個 人：一位大木(日大)
二位遠藤(青学)

残念だけど次はガンバリませう。

10月6日

午前当番に短大の人が手伝いに来てくれたので助かった。どうもありがとうさん。

〔当番責任者 小林〕
先週は二度しか練習に出なかったのが夜グラント10周走った(斉藤)

10月8日

今日は恐怖の水曜日です。当番が終わったあと、水曜日の午後当番(特にツムラ君)は良く働くという話になりました、新しく当番に加わった、芳野女史はまだ、水曜日のキビシサについていけないようでした、水曜日の午後当番は良く働きますがもしもみんながツムラ君のように働くようになつたら当番は30分位で終わってしまいそうです。

(ツムラ)

10月14日

昼飼までに残っていたのは二年一人と三年8人しか残っていなかった、もう少し、一年生も最後まで残るようにしましょう。

10月17日

斉藤、大三元、山本、四暗刻 和了

10月19日

本日、高津さんが練習を見て下さったが練習をもらった人たちは、あとでぶつぶつぶ云っていた、練習内容は、馬のため、又人間のためにもよい運動であった、今後、高津さんの都合のよい時、いろいろなことを教えていただきたいものである。

10月23日

原野君、高校生とふざけ、飼おけにつまづいて足負傷、よって本日騎乗せず、
ナンタルコトヨ!!

10月25日

網島グループ来房

10月29日

木村君、どタマ負傷のため騎乗せず
加藤さん御休憩のため来房す。

10月29日

六時半少青学生会館にて部員会

11月2日

山田恵道さん来房す。

11月14日

四年生卒業写真をとりに来房

11月19日

本日44年度卒業杉山明子さんがオータニで結婚致しました。新郎は、ウエノ・カズヲ氏で、日比谷高校、東京大学卒で三菱商事勤務です。

やわはたのあつき血塩にふれもみて、さみしからずや道をとくきみ(ツムラ)

11月23日

青木さん宅で、パースデー・パーティーをやりました。

11月27日

伊納、斉藤真子、相川の三名は阿部先生のお宅で夕食をこちそうになり、酔って目がすわってしまいました。(ある日撃者)

12月3日

斉藤比佐郎がこたつをクラブに寄贈してくれました。六平君は、風呂桶を寄贈してくれました。当夜入浴者(六平、山本、斉藤、鹿野)

12月7日

関東北女子団体優勝、個人相川三位
大塚さん宅で祝勝会開く
網島で風呂に入ってから上野へむかったの間に合わなかった。しかし近くの中華料理で青学の女性群をみつけ、夕食にありつけた。(六平)

今日から、青駿から青朋に乗りかわった新たな気持でやるつもりだ。(六平)

12月8日

辰野、六平、斉藤、渡辺の4氏、武者修業のため、京都産業大学へ出発。
高校リーグ戦にそなえ強化合宿に入る

12月15日

青朋、青笛、ラックストン、大井競馬場にて去勢"さる。

12月19日

昭和45年1月1日
本日外乗(青留、青駿、柏青、青虎
六時一五分出発、無事帰厩

12月30日

部員全、大掃除、納会

1月6日

対学習院定期戦のため女子強化練習

馬場、新国際馬場、障害などの練習

本日ボロ、ワラをやりました。(斉藤)

1月15日

初乗会。15人出席、六時より行楽園にて親睦会

1月19日

本日、月曜日当番のお別れパーティーをやった、六平さんが非常に乗っていた。

午前当番は青苗の俵温をしていなかったこれはゆるされないことである。

1月20日

今日から木村さんのアタナは、純ブラックになった。

本日は練習者が少なかった、乗るにはよかつたがあと手入れなどが大変であった。

当番のさぼりが増えてきた、これは困ったことだ。

1月24日

試験前なので練習者が少なかった。試験中はもっと少なく有ると思うが、大切な馬のために当番は責任をもって行動すること。

青朋の左前の傷は、寝ワラが少ないからである。もっと馬房の前の方に寝ワラをしくこと。青朋、去勢後、序々に肉がついてきた(六平)

1月26日

今日から試験が始まりました。皆さんがはばりましょう。

1月30日

本日翌何日ぶりかと云われた異常乾燥も終わりを告げ、夕刻雨降る、私の心も試験不出来の為涙雨也

斉藤比君一昨夜の徹夜勉強の為か風邪でDOWN

2月8日

伊納、飯野、三宅がリーダースキャンプに参加(於箱根、松城屋本店)

西城正三はステイブンスに圧倒的判定勝ち

今日から一週間一年生がバットマリすることになった。

五助へ行つた(斉藤)

2月14日

本日バレンタインデー

六平さんがある女(ブス)の人からブレゼソト(手づくりのクッキー)をもらって、鼻の下を長くしてみました。

2月17日

ツムラ君は飼付に遅れてでかい顔して、す。僕はそんなのきらいです。

いいわけ……坂野君は僕がマ時に来たのに飼を早くから作り始め僕一人に朝飼をやらせようという、いんぼうをしくんだのです。

2月20日

永井君は練習をさぼりました、せつかく伊納君が朝早くから待っていたのに、

今晩はテレビのうつりが良い様です。

練習馬は飼食が悪いようです、これは馬を使いたがため馬が疲れているせいです。

早く馬を療してやりせしめよう。

2月23日

山本君・上野洋子と高橋洋子に黄色いシヤツを贈ってもらいまつ赤 横浜で購入のものだそうだが、よかったね、ね、

2月26日

芦川、川嶋、青木さん来殿

小林は青駈で落馬

今日から高橋洋子が高橋順子に改名した

2月27日

本日、四年生追出しコンバ(於赤坂)

3月1日

特報!! 本日ムツシユは第二のたん生日をむかえました。今日から彼は大人になったのである、その年齢オて春を迎えたのである。川崎堀之内にて

3月7日

息子が一人娘が四人生まれました。(ヌケ)

3月11日

青貴号は水たまた障害を一回目で見事に飛越しました。障害になれてきたようです。

3月13日

ワラをもらえる農家を新しく開拓に行きました。友則さんが手伝ってくださいました、途中あぜ道でキヤーセックスの車が行たのでひやかしに行つたらその車の前でド口にタイヤがはまって動けなくなりました。

3月17日

柏と真島牧場に馬を見に行きました。

木村さんちで昼めしを食いました。こはんはハイもたべてしまった。帰りがけに0Bの大塚さんのお宅で夕食をどちそうになったので、今日はメン代が一銭もかかりませんでした。(斉藤)

3月18日

千葉県松戸より新馬入厩、馬主さんの好意にそむかない為に皆でかわいがり立派な乗馬として成長させよう。

3月25日

本日から高見誠悟の特訓である、早く他の一年生に追いついてもらいたい。

4月1日

今夜から東都大学競技大会のための強化合宿である。

4月11日

木村敬男(営3) 新人障害にて堂々位入賞かめでと。

4月14日

今日、保健所の方が来ましたが、もうすぐ馬を飼うのに許可書があるようになるのだそうです。馬にとつては住みにくい世の中になつてしまいました(イヤナ渡世だな)

6月7日

都民大会
中障害 伊納保夫 青留号 第二位

6月14日

飼喰、全頭きわめて良し、カッターの親子きわめて悪し、ワラが長く切れる

6月19日

みんなハリキツテ来たのにもかかわらず休馬チクショー、午前当番のさぼりは一人もいませんでした。寝わらがもう悪臭を放も始めた。

6月21日

寝わらがどンドンふえる、早く晴れてほしい、雨がふると草刈にもいけず、飼がさみしい。

7月1日

水曜の午前当番は男子全員の筈である。雨が降っているからってフザケちゃ困るよ。

7月6日

月曜日の午前当番の人数が少ないと思いません。ふやして下さい。ポロはポロ小屋に入れること。「ポロ・ワラ係より」

7月7日

臭いもの「ポロ」とても熱い、長靴の上からぬくもりがひしひしと伝わってくるのです。小林さんご苦労さん。横江氏が根性を見せ始めました。

7月11日

伊藤獣医来房、白扇にリングル注射をし

た。帰りに請求書くれ、「首をつりそつだから、なるべく早く。」と叫んだ。

「なお、帰る時出口階段下の縄をはつているところで本当に首を、暗夜行路より。

7月21日

男子強化練習開始、今日から練習に作業に全員ベストをつくすこと。

7月22日

僕は飛び乗りが大変おそいので毎日苦勞のしつぱな事です。まだ飛び乗りのコツがわからないせいもあって、二、三回やるといきが切れてしまします。明日からは一番早くやるぞ、でも僕のが早いもんね 板さん。

7月24日

強化練習というものは本当に苦しい。練習、作業と一日中絶え間のない生活である。上級生にもよくしかられる。でも僕にはほんの一瞬ではあるけれど疲勞を忘れさせてくれるものがある。それは僕だけの優しい恋人を思う時である。ありがとう、僕は負けはしないよ。

9月28日

石崎君、高見君と現われ一馬房ヤル。ラックストーンが雨もりでずぶぬれ、とつてもかわいそうです。早く新しい馬房ができませんいかなー！

10月3日

きょうも又もや阿部先生のお宅で一パイ

すきやきをつつきながら四年生の皆様方から非常に有益な話を伺いました。

伊納さんがお帰えりになってから、六平さんと山本さんがおやすみになられたのですが、私は目がさえてしまかたがなかつたものですから、「水芋」へ行つて「リオ」に梯子をしたので伽座居ます。飲んだあと歩いたのがきいて、必死で靴屋にたどり着いたら、まあなんと三谷さんが車でブーツとやつてきて、「オウ、メシ食いに行こう」と

こうおつしたのでこ座居ます。六平さんと山本さんは鼻をつまれても、お起きになられなかつたそうです。そのおかげで「一心」でお茶づけをいただき、かきを土産に今こうして女子更衣室のベットに横たわっている訳で御座居ます。ナムアマミタブ

10月6日

小林さんと横江、板倉で新大久保へ丸大を取りに行きました。やはりいいトラックで行くと案だなあ。原野さんが綱島会館で7スターを5個も取ったと目じりをおつ下げて喜んでと思うべし。久しぶりの快晴で寝ワラが非常によく乾きました。真青な空の下で長靴を磨くのは、キリ概の高柳の顔を見るより「本当に憎たらしい顔をしている人です。」と気持ちがいいものですヨ みなさん。

10月8日

NO 日増に良く将来有望、乗馬の人舌を出さないようにするのに一苦労 渡辺さん、乗馬をする際キロツトのお尻

を破る、我々の首を聞き、少し赤面だがしかしそれによりて我胸に純真さの残存を知り感無上、僕も寝ほうしなれば首が聞けたのに惜しいことを致しました。 (六平)

10月11日

おはようございます。あつ雨だ、雨はいやだなア、いやだ、いやだ、おやすみなさい。日曜洋画劇場。「屋下りの情事。」ああ僕のオードリー!! オードリー!! 君のいない夜なんて、ボクは今にも気が狂いそう。早くボクのもとへ帰っておいでボクの胸はいつまでも君を待っているよ、どうかボクを忘れないでオードリー。君にもらった愛の手紙、愛の言葉、大切にしまつて目を閉じよう。おやすみオードリー。

10月26日



今日は楽しかったです。午後七時半ころ泊りに行くと、ちょうどおりさんが青貴をだしてのろうとしていました。そして最後に「横江くんのつてみな」とおっしゃいましたのでほくは必死でなりました。その間約二三分でしたが、まるで天国にいるような気分でした。青貴は馬なのだ、ということがわかりました。

10月31日

今日は、豊田君が女の子を連れて練習にきました。練習が終るまでその女の子はただ一人、豊田君をみつめたまま待っていました。練習が終わると豊田君とその女の子は網島の〇〇〇に消えて行きました(ナヌ)

11月1日

今日は久しぶりに佐藤一貫さんがいらっしやいました。一貫さんは、青朋で落馬、明日は会社を休むかもしれません。

「あの歌」

法学部四年 曾 我 正 晴

学生生活も終りに近づいてきました。色々な事があり色々を事を思い出しますがここで「馬術部歌謡史」なるものをひもといて見たいと思います。まず張さん。僕が一年の時の主将でした。非常にきびしい方でしたが、その人が豊かな声量と美しい高音で歌った「ああ、上野駅」「上野はおいちの心の駅だ。くじけちゃならない人生だ」

きびしい人のまた別の面を見た様な感じがしたものである。

次に三谷さん。酔うと顔を赤くしながら「ハクンド・ドック」を歌っていました。

YOU ARE NOTHING BUT HOUND DOG……。僕

達の「一年上の方々は芸達者が揃っていました。網島で合宿した時、暗くした部屋で一人月の光に照らされながら里中さんが歌ってくれました。(君と別れて始めて知った、ほんとは君が好きだったと……。川島さんも色々歌っていました)がやはり「アコの歌」が一番です。「アコと僕とで見つけた星は夜空の星の王子さま……」。当時クラフにアコなる人が居たとか居なかったとか。

次に環さん。リズム感抜群で、バケツをひっくり返して叩きながら「スーパの歌」をよく歌っていました。「キッスも君にしないで、僕が行けるはずがない……」。安田さんは何んと言っても「青い炎。目をとじて心を込めて歌う姿は素敵でした。さて主将であった芦川さんは歌もよし踊りも良しで「東京どまんか」は最高でした。僕達の代にもうまいのが居ます。一番手は六平君。最初の頃は童謡を大きな声で歌っていました。その内流いのを歌う様になりました。その一つ「ネオン川」「誰が名づけた川なのか……」。ロマンチストな彼にびびったりです。次は飯野君。高倉健の「唐獅子ボタン」が得意。人の情にほだされ

やすい健さんそのままだと思います。なにか馬術部のテーマソングみたいなのが「東海健児の歌」「やるんだやるうぜ、やる時にや、東海健児は意気の子だ」。

名古屋は東海高校出身の山本君の歌です。いい歌でした。彼はある時はリズムムアンドブルースを、ある時は演歌を口ずさんでいました。さて主将を勤めた伊納君。彼は歌うよりも歌わせる方が得意だった様です。僕も聞く方が好きでLPなら六、七枚、シングル盤なら六十枚以上持っています。一枚一枚に色々な記憶がこっぴいて、それを思い出しながら聴くのは楽しいものです。さてこう見ると馬術部の男どもは皆ロマンを愛しユーモアを解し涙もろい男達だったと思います。いががでしようか。なお多数の春歌なるものが歌われましたが出版物コールドにひっかかりそうなので発表はまたの機会にしたいと思います。

或る秋の日 ふと感じた朝



飯野 和 男

昭和45年11月29日。東京競馬場での10万人の人間を集めた天皇賞。その10万人の60頭の支持を受けた名馬アカネテンリユー、競馬予想家たちの全部が本命に推した名馬アカネテンリユー、調教、血統、コソディションにおいて他を完全に圧していた名馬である。日本中の競馬ファンが熱狂する天皇賞レース、そのレースの主役を当然のどとく思ったに違いな騎手、調教師、馬主たちのアカネテンリユーである。その完全ともいえる名馬が負けた。結果は勝利とは正反対の敗北である。

なぜ負けたのであろうか、僕にはその原因が分かるような気がするのです。それは馬にも人間にも又その他の世界において、「絶対」という言葉は存在しないからである。彼らはその「絶対」という言葉に負けたのである。

馬術生活四年目の秋、僕はアカネテンリユーにこんなことを教わりました。

図書館にて

経営四年 六 平 潔

町にはジングルベルの音楽が流れ、人々はあわただしく行き来しているというのに、ここは別世界のように静まりかえっている。今は夜の七時をもう回っている。外に目をやると、短大と大学の校舎から、明かりがもれている。二部の学生が講義を受けているのであるうか。

一年の頃には、よくここへ来て、予習や

宿題をやったものだ。なにしろ一年の頃には、礼拝にも、たまに出ていたというのだから、人間というのは、かわればわかるものだと自分ながら驚く。

ぼさっとしていて、馬場が頭の中に浮んで来た。今週は高等部の合宿と聞いている。なにしろ、高校生の私生活は、大学とそんなに変わらないというから未恐ろしい。コーチの小林は今ごろふとん蒸じされてはいないかと、くだらない心配が頭をかすめる。それにしても高等部にいたずらされても、にくむ気になれない程、高等部とはかわい存在だ。しかし、大学に入って、もつともつきびしさを味わって、人間を成長させてほしいとも思う。

それにしても、一度、現役を退いて、現役時代を駆け返ってみると、いやだったこと、苦しかった事が、楽しかった事にかわってしまっているから不思議だ。しかし、現役にとつて、馬術部は現実であり、思い出とか夢とかいった甘っちょろいものではないことは確かだ。ボロがたまれば農家へ運ばねがならない、ワラがなくなれば捜しに行かねばならない、馬房がおかしくなれば修理しなければをらない、馬が苦しうにすれば徹夜で看病する、馬場がよければそうじをし、金がなくなればバイトに行かねばならない。泊りもあるし、朝寝坊すれば先輩にとやされる。ああ、やんなっちゃう。馬術部ほど自分の時間がつぶされる所はないと思う。これは一年の時から思っているし今もかわらない。一年の時は、この事が苦痛で、上級生にわがままを言ったり、やるべき事をやらなかった時もあった。

しかし、一年の後半から、僕の部生活もだんだんかわって来た。それはとりもなおさず、馬術部とはどんなものであり、自分の中で何をしなければ、真の部員として認めてもらえないのかという事がだんだんではあるが、わかかって来たからである。ボロとワラの仕事をするようにになり、常に頭の中にボロとワラの事が存在しているような毎日をおくる内に、ほこりを全身にかぶりながら、ワラを運んだりする仕事を楽しんくなって来たのである。馬房にいたワラに、馬が寝つころがるのを見るたびに、この仕事のやりがいを感じた。こんな事を通じて、つまらなく見える事でも、一生懸命やっていると、そこには楽しさが待ちうけているという事を発見したのです。

断片的合宿記

教育四年 眞野 恭子

はじめてさわった馬が青駿。
ああ生きている。とその暖かさに大感激して家へ号外!!と手紙を送ったのが昨日のように思える。

振り返って四度の合宿の事を書いてみたい。一年時・時は七月、所は柏乗馬クラブ、

大荷物を抱えて着いた宿泊所のわびしいところは種々の虫の訪問を受け、お風呂場は四方からのぞけるとあつて、一時はどうなることかと気を揉んだが住めば都とか、いつのまにか慣れてしまった。

馬場までオート三輪の荷台に鈴なりで通う、通りがかったオニサンに「わーい」と手を振って聊入った記憶あり。毎日二鞍、稲武にて初駆歩。柏恵にひっかけられた事もあり、めずらしさのかたまりの合宿だった。二年時、同じく柏で行なう、暑かったな、上級生としても下級生としても中途半端だったと大いに反省した年である。

三年時、静岡の大浜乗馬クラブへ足をのばす。私達の代が中心となつた年でもあり、費用の件、馬の扱い方など色々な面で考えさせられたが、公の感想とは別に、乗った、飛んだという感が深い。特にトップ号には



祝第9号いなきき発刊

日本の伝統を愛する

卯 里 (池袋) 英服

TEL (977) 6683

六鞍もお世話になった。やせた栗毛の馬で反動が滅法高い上横揺れも加わり、おまけに小さな小さな鞍で不安定この上ない、よく歩く馬の後についてしまい、しまったと思つた時はもう遅い、アプミをあげ、歩度を伸ばせー、もういけない。乗つているというより浮いている感じ。目の前の景色が異常にはつきり目につくる。

だんだんやけつばちな気持になつてくる。下馬した時は人馬共々ぐったりだった。四年時、那須にて自馬で行なう。

何たることか、雨に降られつばなし夜な夜な朝着る服の心配をする羽目になった。お姑さんの気分になり自己嫌悪に陥る。

あつという間の網島生活でした。馬を大事に、一鞍々を考えて乗つて、がちりした馬術部をつくつて下さい阿部先生、御身体を大切にいつまでもお元気で!!

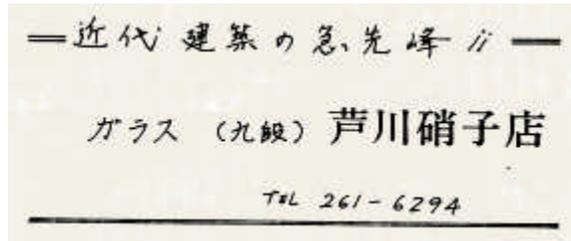
無題

法学部四年

斉藤 真子

今はもう十二月。毎年やって来る水の季節がそろそろ網島をおそう頃です。三度耐えて来た冬の始りを、今こうしてのんびりと迎えているのが不思議です。朝寒い中を早起きする心配も、つきささる冷さが足の裏から体中にしみ入るつらさも何の心配もなく……。

特別思い出なんてありません。クラブを去るに当つてつゞりたい事なんてありません。



ん。そういえば以前よく歌われた風という歌、何かを求めてふり返つても、そこにはたゞ風が吹いているだけ、つていう所が少なかった。今よりもつたつた頃、思い出をみつげに網島を訪ねてもそれこそきつと、そこはたゞ……でしよう。でも心の中にだけ残しておけるすてきなものがあつた。それは自分が実際にクラブ生活にあつた時には気づかづにいた、一瞬一瞬の真剣な気持です。

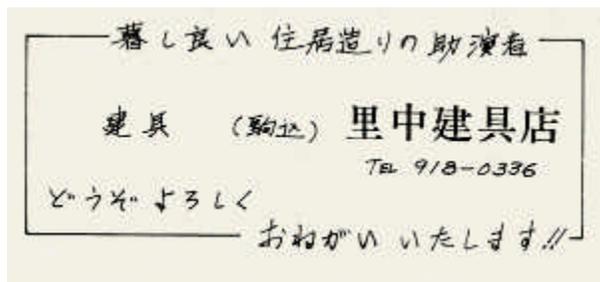
試合に出る人のつけ人て走りまわつた私、試合に出るので緊張していた私、そして友達。馬匹変えの時の何ともいえない気持の私、そして友達。あばれるのを引き馬した時の私、そして友達。いろいろあつてきりがない程。あとでひつくるめて、思い出なんて言つてしまふには、その時々あまりに真剣だつたではありませんか。だから今、よかつたな、そう思えるのかも知れませんが……。

卒業に当つて

短大家政学科二年

千葉 雅世

あつという間に過ぎた二年間を振り返えつてみると、青草の美しい土手際の馬場、暑さで若しかつた夏の馬場、試合におわれた秋の馬場、どうしてこんなクラブに入つたのかとしみじみ思つた冬の馬場、そんな二年間が、思い出されます。私達二年の女子も最初の人数十余名から今は、八名に減り又、今年短大四名の卒業にあたり、残り大学の四名に今後のクラブをお願いして卒業するしだいですが、各々の家庭状況や身



体的理由などで色々な問題もある
ようです。
しかし私達がクラブの一員であり
えるのは、
やはり家庭の一員としてその役目
をはたし

てこそ部員である権利
が与えられるのであ
って、家庭あつての部
員である事を忘れて
はいけないという事
です。つまり家庭を犠
牲にしてまでクラブに
専念する事は、けっ
して他人がすすめるべきではないという事
です。自分自身で、家庭における自分の事

ナンバー1号

アラ 雄、鹿毛、45年5月入厩
ヤセでヒョロツとノッポで、ちょ
つとポサーとしてるみたいだけど
青学厩舎の1人の男だし、一番若
いんだぞ。
やろうと思えば何だって出来るん
だぞ。
最近の僕は、障害だって飛べるん
だよ。それときちんとした名前つ
けて下さい。

伝統ある青山の馬術を、今後、
増々発展さ
せていただきたくお願いして卒
業したいと
思います。

馬 匹 紹 介

やむなく、クラブをやめ
なくてはならない
わけですが、これから三
年にあがる同級の
皆様に今後のクラブの運営
をおまかせして、



置、クラブにお
ける自分の位置
を、考慮し
て、結果を出し
てほしいので
す。本来なら
ば、あと二年間
クラブ生活があ
るはずの私
達ですが、残念
にも学業終了の
時期となり

青 凜 号

アラ、馬扇、鹿毛、45年7月
吉尾氏寄贈
僕は、青学じゃ一番の新参者、そ
れにチビだけど、まあ足腰のパネ
見て下さい。
だから、試合でも早々とゴール切
る事出来たんです。ちょっと我が
ままだけどよろしく御指導お願い
します



編集後記

正月の松の内を過ぎていよいよ卒業だなど、しみじみ考えるようになってしまいました。そう思っこの四年間をふりかえるとほとんど馬術部と馬の事ばかりであります。それにしても四年生、男五人、女三人、四年間よくやって来たと思います。

皆それぞれ個性的な者ばかりなのに、年中けんかしながらも、青学の馬術部健児として一丸となつてついにここまで来てしまいました。それに加えて短大卒業生四人、クラブの良さも悪さも半分しか経験してないけど、四人共この二年間を大事にして来たみたいですよ。

これらの今年度卒業生十二名が「いななき」編集のスタッフとなつて、何度か編集会議をかさね、ああでもない、こうでもないと言いつつも何んとか、この「いななき」を、印刷に出すまでに、こぎつけました。

全員未熟な者ばかりでありますので皆様方の御希望にさうようなものが出来上がら無かつたとは思いますが、この「いななき」を通じて緑鞍会・一部現役・二部現役・高等部・間の何んらかの橋わたしになれば、幸いと思います。

青山学院馬術部の発展の為、皆様方より一層の御努力を御願ひ致します。

この稿を借りまして、「いななき」発刊にあたり御協力を戴きました。方々に御礼もうしあげます。同時に長い間、御世話になりました。部長先生、阿部先生、佐藤監督に對し心より、感謝もうしあげます。

伊納記

いななき 第九号

発行所 青山学院体育会馬術部
編集委員

編集 伊納保夫 (法)

三宅恵子 (文)

斉藤真子 (法)

美術 曾我正晴 (法)

高草雅子 (短児)

広告 飯野和男 (営)

千葉雅世 (短家)

會計 六平 潔 (営)

小森谷 正子 (短文)

校正 芳野 恭子 (文)

高橋洋子 (短文)

渉外 山本隆雄 (法)

馬場 横浜市港北区綱島上町

青学グラウンド内 馬術部

TEL 〇四五・五三一・〇五七〇

(守衛所)

部室 東京都渋谷区渋谷四・四・二五

TEL 〇三・四〇七・二五四六

体育会本部

